

通信

NO. 95
2020年12月号

ビジネス総研株式会社

福岡市博多区博多駅前4丁目
33番11-702号
☎092-409-4177

今月のスケッチ

季節の贈り物リンゴ



真っ赤なりんご。ことしも季節のたより。さっそくスケッチしました。

スタ コラ

秘密の質問 と印鑑

森本 信明

「初めて買ったCD、レコードのアーティスト名は？」長年未使用だったあるウェブサービスのログイン認証画面でのこと。

そのサービスでアカウントを作る際にパスワードとは別にいくつかの質問をされ、それに答えたのだろう。「出身校」のよ

うな一意に決まる問いならともかく、「好きな食べ物」や「感動した映画タイトル」なんて設問だと、登録した時分と現在では違っているかも知れない。

初めてのレコードは覚えているけどA面の演奏者は忘れてしまった。困った。

ショートメッセージ（電話のSMS）による二段階認証が普及する前には、この秘密の質問による認証方法は普通だった。今も多い。

パスワードも秘密の質問も、入力者が「私」であることを確かめるための方法だ。

秘密の質問に正しく答えられる人間は世界中に私一人。「私を特定」するために有効な手段であることは間違いない。

しかし世の中には「私とみなす」ことで用が足るサービスがあり、その一つが銀行における「通帳と印鑑」システムだった。

私だからでなく、その通帳と印鑑を持っている人が何かしらのサービスを受けられる、というシステム。それによって「私でなくとも私の信任を受けた」とみなしてサービスを提供する。うまい考え方だと思う。

「ハンコを預ける」というのは「この人に任せます」と同義である、という前提。とりあえず何にでもハンコを押さなければならぬのは愚の骨頂だけれども、印鑑の利便性や有用性も忘れてはならないと思う。

秘密の質問と違って、曖昧だったり忘れてしまったり、といったおそれは印鑑にはないのだから。

今年になって多くの企業・組織で叫ばれた「脱ハンコ」の目的は無駄な手続き・形骸化した習慣の廃止であって、印鑑が不要だ、という議論ではない。

そもそも無駄なことはやめるべきだし、そういう合理化の精神とリモートワークとの直接的な関係はない。

現実に、福岡市がこの「脱ハンコ」に取り組み始めたのは昨年の冒頭からで、当時誰もコロナ禍なんて予想していなかった。

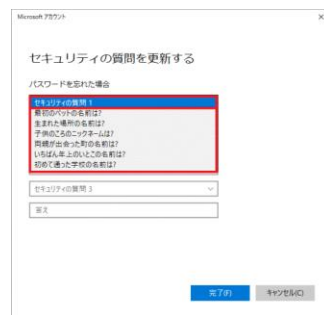
いずれあらゆるシステムに生体認証技術が導入されて「私を特定」することが容易な世の中になるのは必定だろう。

それでも印鑑の利便性のすべては包括できないので、新たな印鑑の活用方法が広まるような気がする。「インカン 2.0」とか「ハンコ声明」として提唱される時代が来るかもしれない。

先の認証画面では、歌手名でなく、レコードのタイトルを入力することにした。

うまく認証された！

「ルパン三世」♪ あっしーもとに一、からみ一つくー…。





映画大好きの山ちゃんが、毎回、自分の言葉で執筆します。

記憶にごさいません



監督:三谷幸喜
出演:中井貴一
ディーン・フジオカ
石田ゆり子
草刈正雄
佐藤浩市
小池栄子

三谷幸喜監督の8作品目は、日本の政界をユーモアでぶった斬る=話題の痛快政治コメディ。

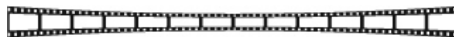
主人公は普段の暴言・失言・セクハラはもとより、度重なる増税なので支持率2.3%と国民から嫌われる憲政史上最悪の総理大臣黒田啓介(中井貴一)。

彼は有権者の投げた石が頭に当たり記憶を失ってしまうのだが、この事によって少年のようにピュアで善良なおじさんへ大変身。

腐りきった日本の政界に変革

を起こしていくこととなるのだが…

コロナ禍、新政権の発足によって日本中が政治の動向に注目する昨今、本作を楽しみつつ「政治家とは、総理大臣とは本来どうあるべきなのか」を考えてみるのも一興かもしれない。・・・



くまさんの コンサル日誌



似顔絵作家の小西みどりさんに描いていただきました。

今年の漢字「幾」



12月になると「今年を表す漢字一字」が話題になる。

今年を振り返ってみると、1月20日、横浜港から出港した豪華客船ダイヤモンドプリンセス号から“新型コロナウイルス患者”が発生し、一気に国内感染が拡大した。

子どもたちにとっては、卒業式も入学式もない。登校すらで

きない事態が起きた。

手指の消毒やマスク着用、ソーシャルディスタンスやアクリル板。仕事の仕方も「在宅ワーク」や「オンライン」が普及し、“新型コロナウイルス”で国民生活は一変した。

しかし、激変した社会の中でも、いくつかの変化の幾(きざし)が見えてきている。

“アベ強”も“サクラ”のほころびで、「憲政史上最長」を豪語する間もなく退陣し、“後継スガ”も“学会会議任命拒否”や“コロナ対応無策”が露呈し、早くも行き詰まりを見せている。

ことしは、「三権分立」と「国民主権と民主主義」など国是とする立憲主義をめぐって、本質的な変革の幾(きざし)を感じる一年であったように思う。



編集後記

鳥栖市の村田八幡神社の“おくんち”は、“コロナ”で中止になったが、実家の前にある下宮の大イチョウは、今年も変わらず色づき、季節を告げている。



Relationship & Partnership
Bビジネス総研
ビジネス総研株式会社
 福岡市博多区博多駅前4-33-11-702
 ☎092-409-4177 FAX092-409-4170
 Eメール kuma@b-souken.com
<https://www.b-souken.com>